

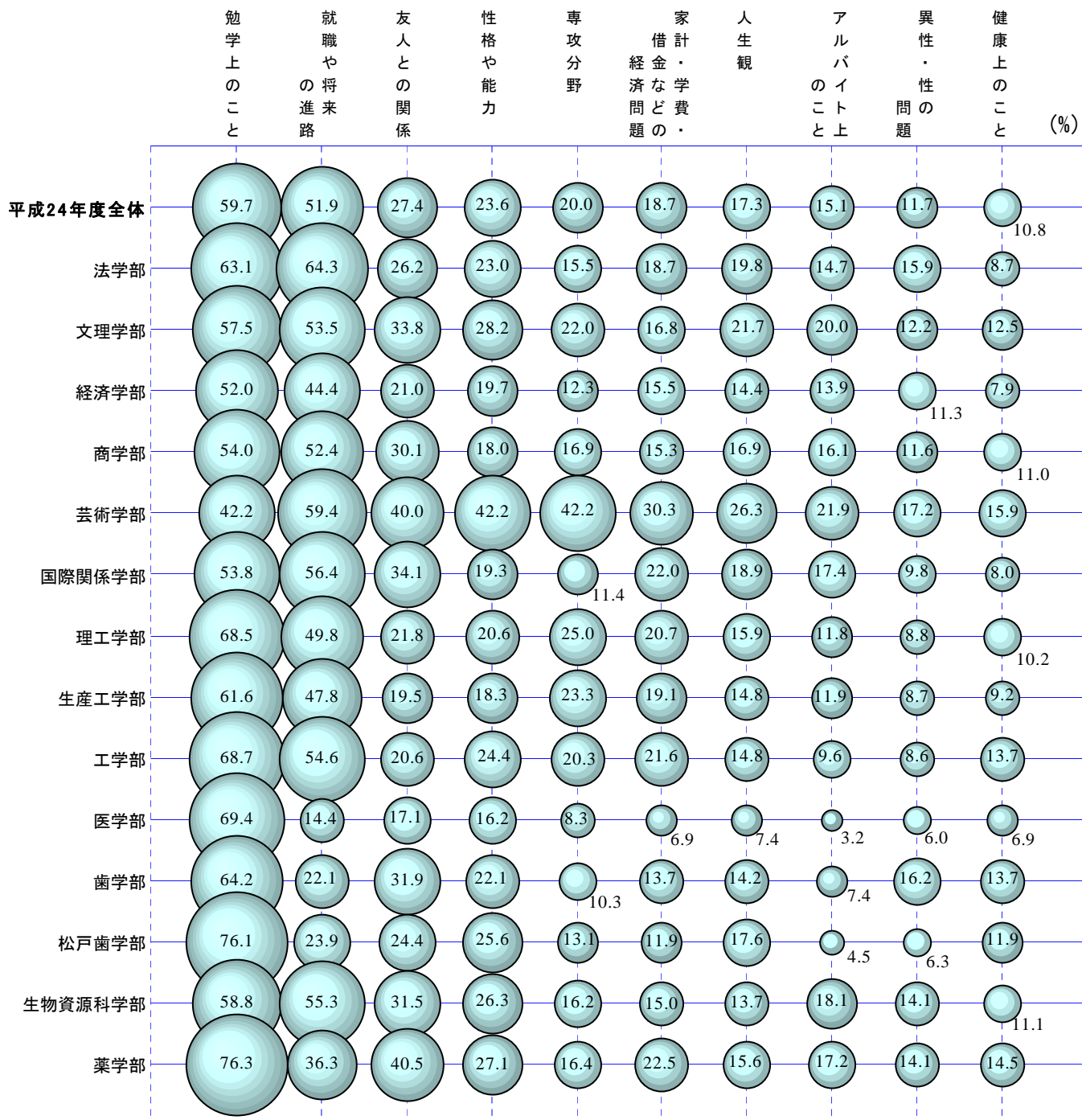
第5章 学生が抱える不安・悩み・トラブル

1.不安・悩み・トラブルの内容

本学学生の不安・悩みは、「勉学上のこと」が59.7%でトップ、「進路」が51.9%で続く。「勉学」についての悩みは薬学部と松戸歯学部で高い。「進路」については学部間で差が大。

在学中に経験した不安・悩み・問題（トラブル）を全体で見ると、「勉学上のこと」が59.7%で最も高く、「就職や将来の進路」が51.9%で2番目に高くなっています。本学の学生にとって勉学と将来の進路が主要な不安・悩みであることが分かります。次いで、「友人との関係」「性格・能力」「専攻分野」「家計・学費・借金などの経済問題」の順で高くなっています。

学部別に見ると、平成18年度に6年制になった薬学部と、推薦入試やAO入試で入学した学生の比率が高い松戸歯学部では、「勉学上のこと」が76%台と高くなっています。また、「就職や将来の進路」についての悩みは、法学部で最も高く、医・歯学部系ではかなり低い点が目立っています。芸術学部では7項目で14学部中最も高く、多様な不安や悩みを抱えている学生が多いようです。

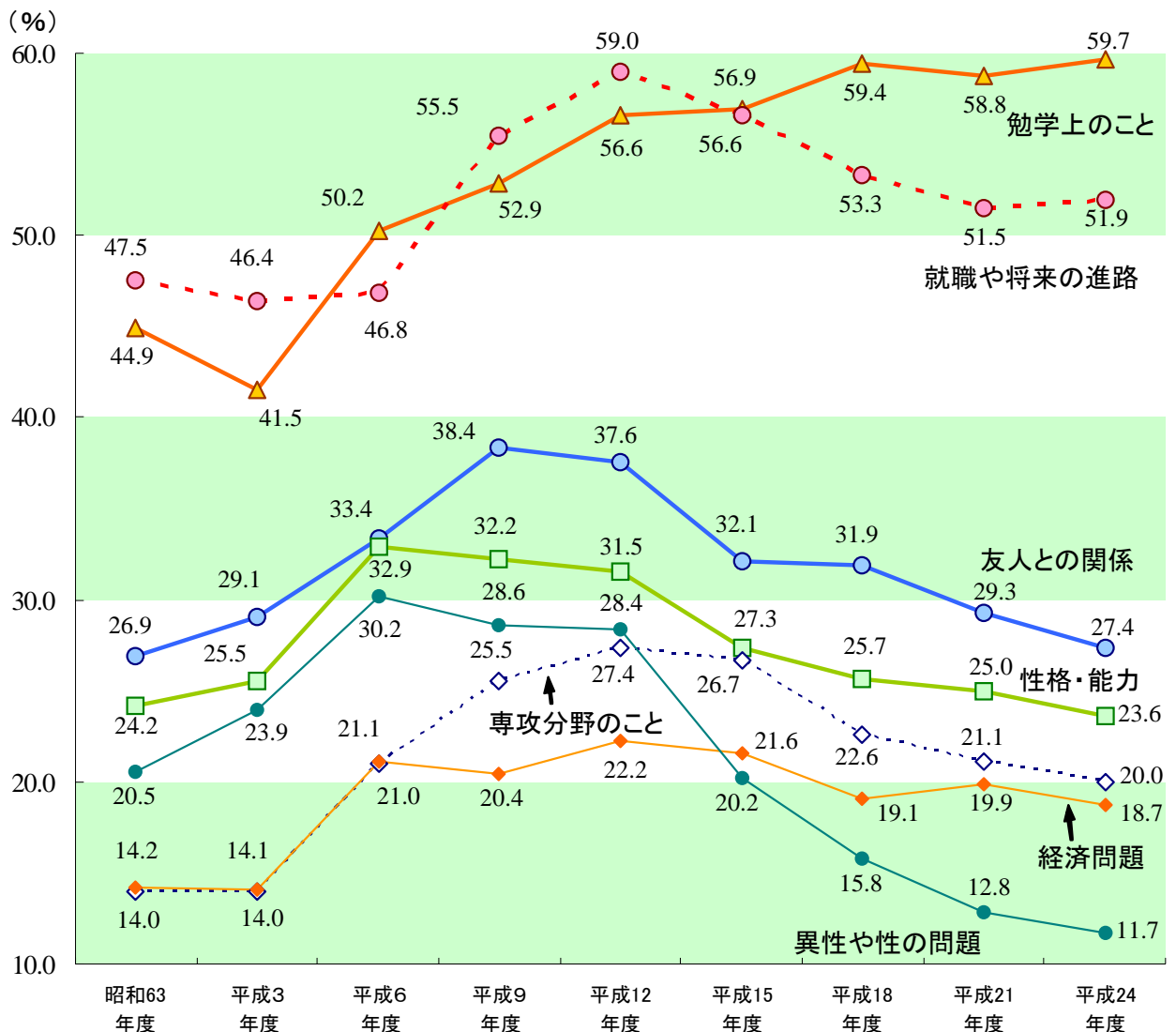


2.不安・悩み・トラブルの内容—主なものの経年変化

「勉学」についての不安・悩みの増加傾向が継続。
 「進路」は平成15年度から概ね減少傾向。学生指導の成果の表れ？
 勉学意識の高まりとともに、交友関係の悩みは大きく減少。

学生が抱える不安・悩み・問題（トラブル）の主なものの経年変化を見ると、「勉学上のこと」が平成3年度の41.5%から漸増し、21年間で18.2ポイント増加しています（芸術学部・文理学部・薬学部・生物資源科学部・法学部・医学部・松戸歯学部では25ポイント以上増）。「就職や将来の進路」は平成6年度から平成12年度まで急増し一時期学生の悩みのトップでしたが、平成15年度以降減少に転じ、直近の3年間では微増しているものの依然「勉学」を下回っています（平成12年度から12年間で経済学部で21.7ポイント減、医学部・松戸歯学部でも10ポイント以上減）。就職や将来の進路を意識した学生指導が成果を上げていることがうかがえます。

「友人との関係」は平成9年度をピークに減少傾向（医学部で25.3ポイント減と顕著）、また「異性や性的問題」は平成6年度をピークに大幅な減少傾向が続いています。クラブ・サークルへの参加率の増加傾向やキャンパスで一緒に過ごす学友の数の傾向の変化を考慮すると、学生の交友関係が希薄になってきたのではなく、関わり方の変化が表れているものと思われます。長期にわたる景気低迷の中、「家計・学費・借金などの経済問題」は平成6年度から20%前後で推移しています。



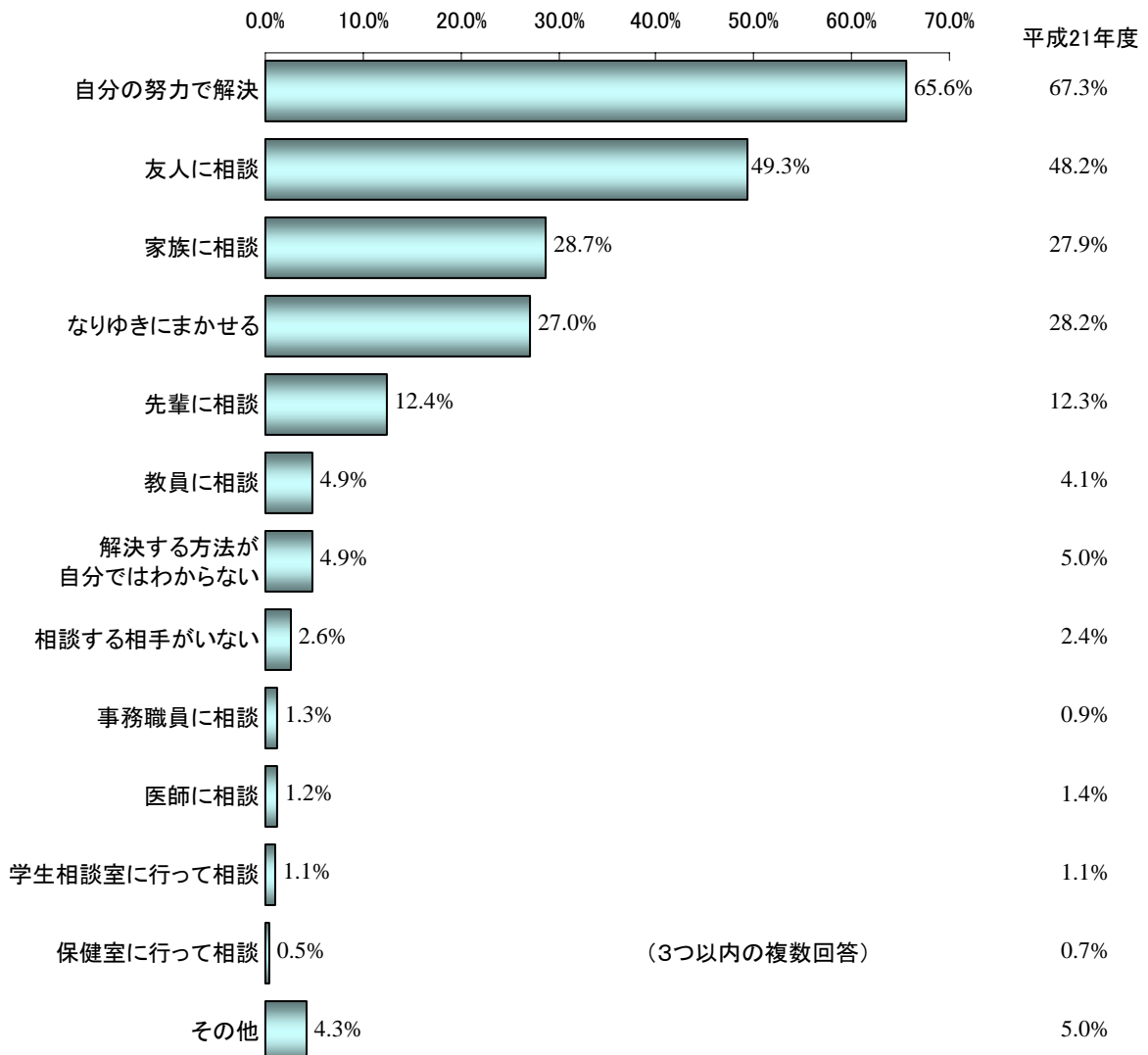
3.不安・悩み・トラブルの解決方法

不安・悩みは「自分の努力で解決」する学生が65.6%。
相談相手は友人がトップで家族・先輩が続く。3年前と比較して相談する学生が微増傾向。

不安・悩み・トラブルの解決方法について全体で見ると、「自分の努力で解決」するが65.6%でトップとなっています。「友人に相談」が49.3%、「家族に相談」が28.7%、「先輩に相談」が12.4%となっており、相談する際には身近に感じる人にする傾向が見られます。

不安・悩みのトップは「勉学上のこと」でしたが、教員に相談する学生は4.9%にとどまっています。相談相手として、事務職員・学生相談室・保健室は1%前後となっており、学内の関係者や窓口は活用率が低いのが現状です。

3年前と比較すると、「自分の努力で解決」が1.7ポイント減、「なりゆきにまかせる」が1.2ポイント減となっているのに対し、「友人に相談」が1.1ポイント増、「家族に相談」が0.8ポイント増など、身近な人に相談する学生が若干増加する傾向が見られます。

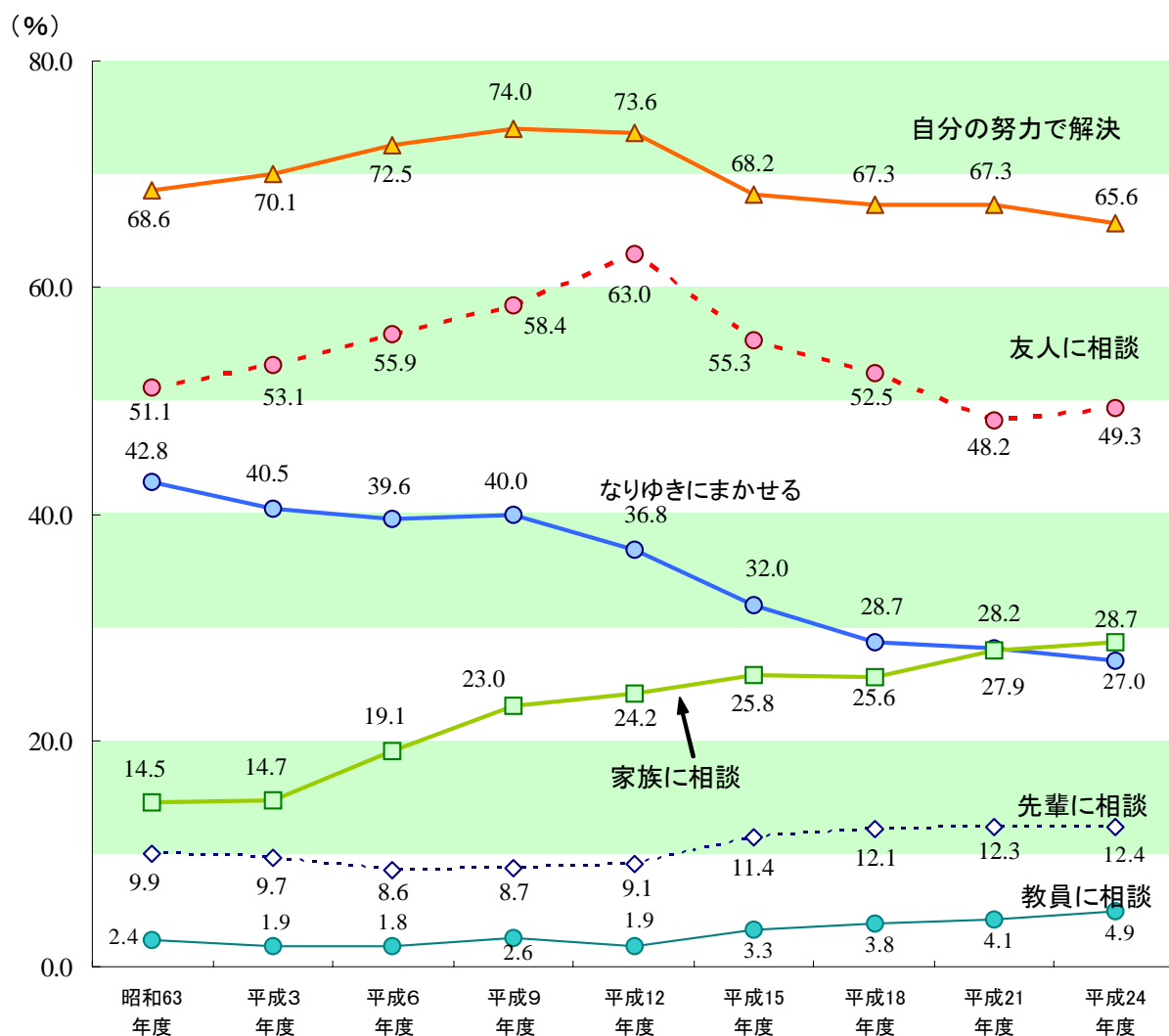


4.不安・悩み・トラブルの解決方法—主な解決方法の経年変化

自助努力で解決となりゆきまかせが減少し、身内や信頼できる相手に相談する学生が増加。学生の不安・悩みなどの深刻度が増している？

経年変化を見ると、「自分の努力で解決」は平成9年度の74.0%をピークに15年間で8.4ポイント減、「なりゆきまかせ」は昭和63年度の42.8%から減少傾向が続き、24年間で15.8ポイント減少しています。学生の不安・悩み・トラブルが自助努力やなりゆきまかせでは解決できないくらい複雑化してきているのではないかと危惧されます。

「友人に相談」は平成12年度の63.0%をピークに減少に転じ、直近の3年間では微増したものの12年間で13.7ポイント減少しています（経済学部・医学部・松戸歯学部では20ポイント以上減）。一方、相談相手として「家族」は昭和63年度の14.5%から増加傾向が続き、24年間で14.2ポイント増加しています。さらに「先輩」「教員」も微増傾向にあります。身内や経験があり信頼の置ける人に相談する傾向が強まっています。不安・悩みなどの深刻度が増してきているのかもしれませんが。

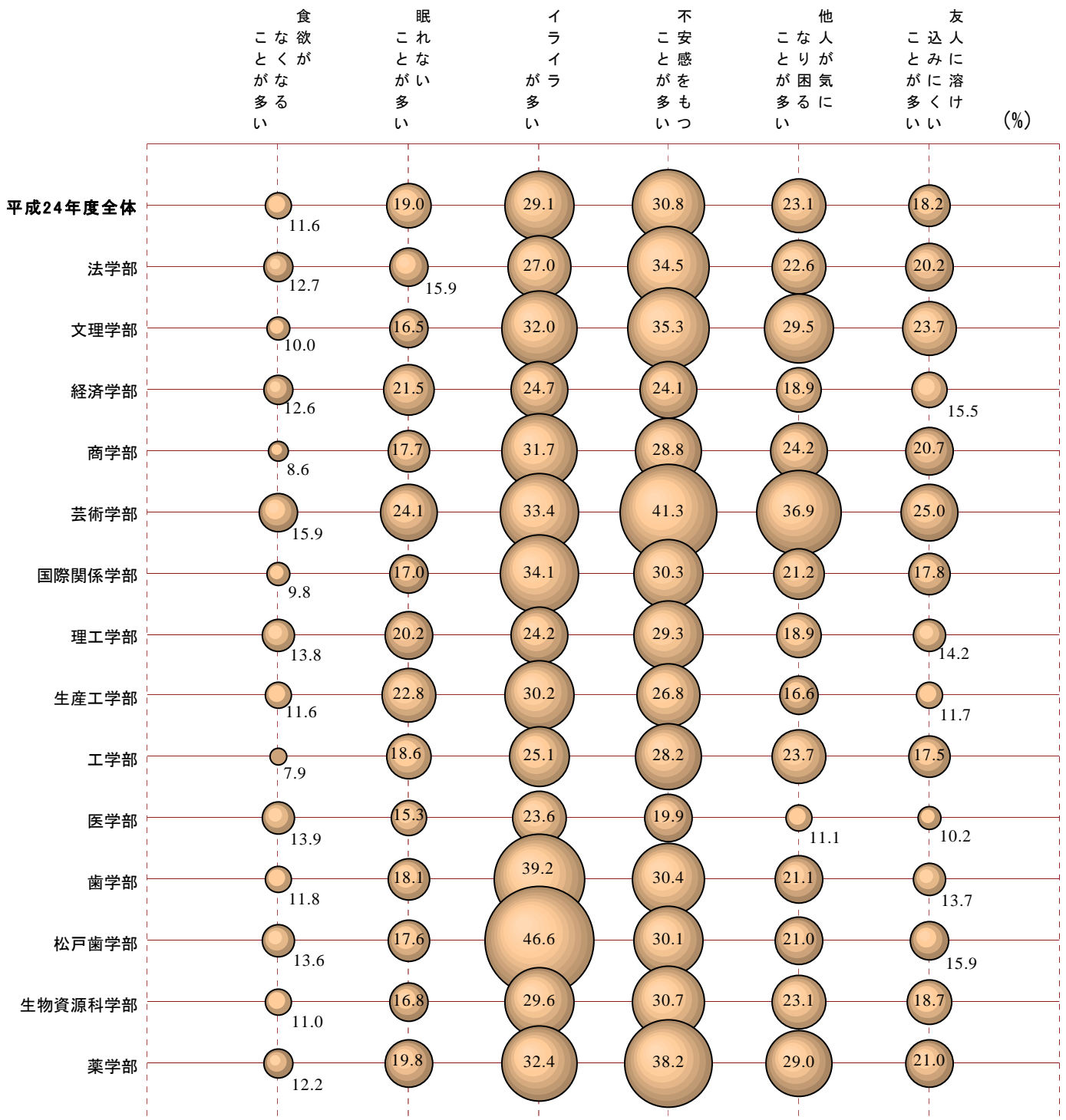


5.日常生活での不安感

日常生活に「不安感をもつことが多い」学生が30.8%、「イライラが多い」学生が29.1%。不安感・イライラは歯学部系の学生で高め。学部間で若干の差。

全体で見ると、日常生活において「不安感をもつことが多い」が30.8%、「イライラすることが多い」が29.1%、「他人が気になり困ることが多い」が23.1%、「眠れないことが多い」が19.0%、「友人に溶け込みにくいことが多い」が18.2%となっています。

学部間で若干差が見られ、「不安感」は芸術学部と薬学部で40%前後と高く、「イライラが多い」は歯学部系で約40%~50%、「他人が気になり困る」は芸術学部・文理学部・薬学部で約30%~40%と高くなっています。

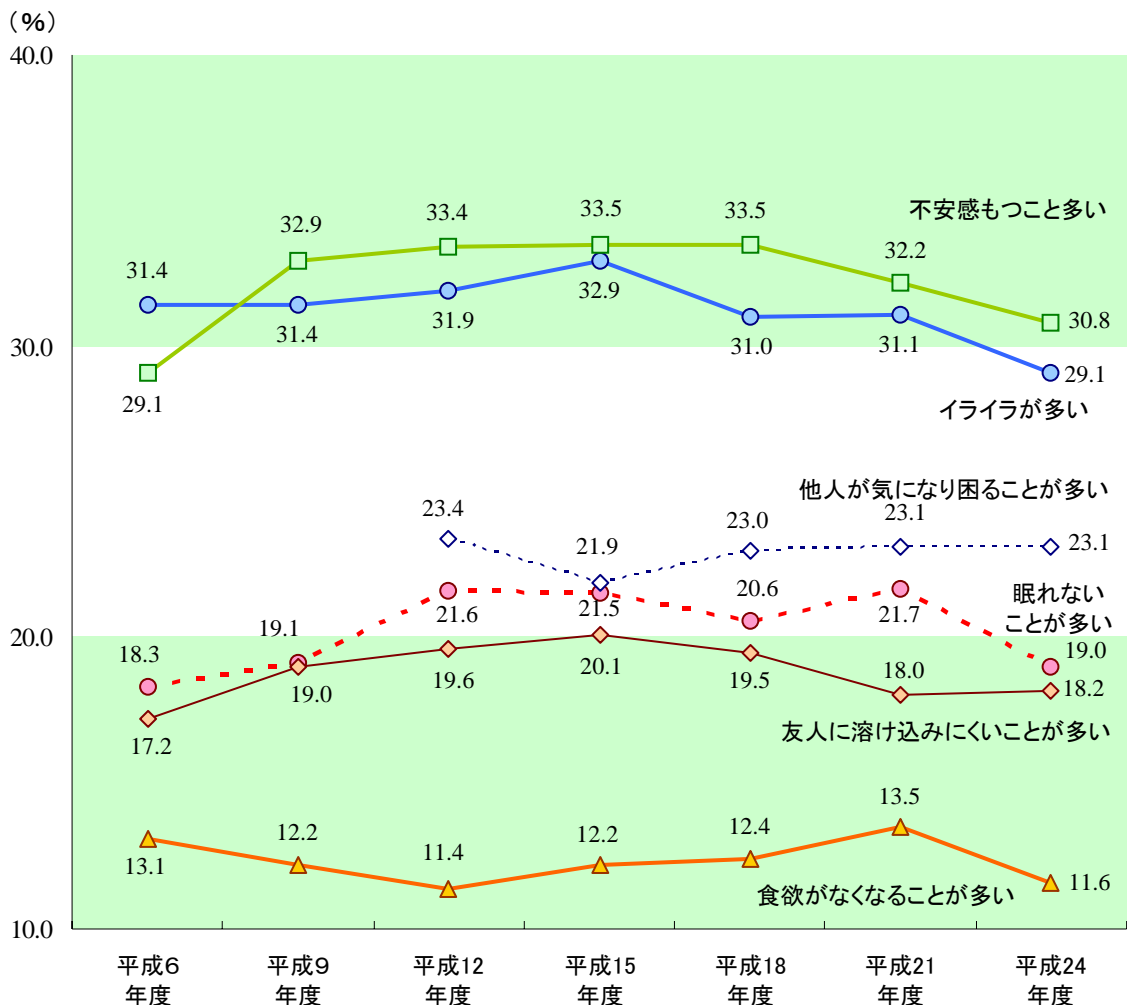


6. 日常生活での不安感－経年変化

日常生活での「不安感」と「イライラ」が近年減少傾向。
 学生生活の充実度が増してきていることの表れか。

平成6年度からの経年変化を見ると、日常生活で「不安感をもつことが多い」学生が平成9年度に約4ポイント増加し、その後は横這いとなっていました。平成21年度から減少に転じ、直近の6年間で2.7ポイント減となっています。「イライラが多い」学生は平成6年度から30%強でほぼ横這い傾向となっていました。直近の3年間で2.0ポイント減少しています。日常生活で「不安感」や「イライラ」を感じる学生の比率は決して低いとは言えませんが、近年減少傾向にあることは、学生生活の充実度が増してきていることの表れと考えることもできるでしょう。

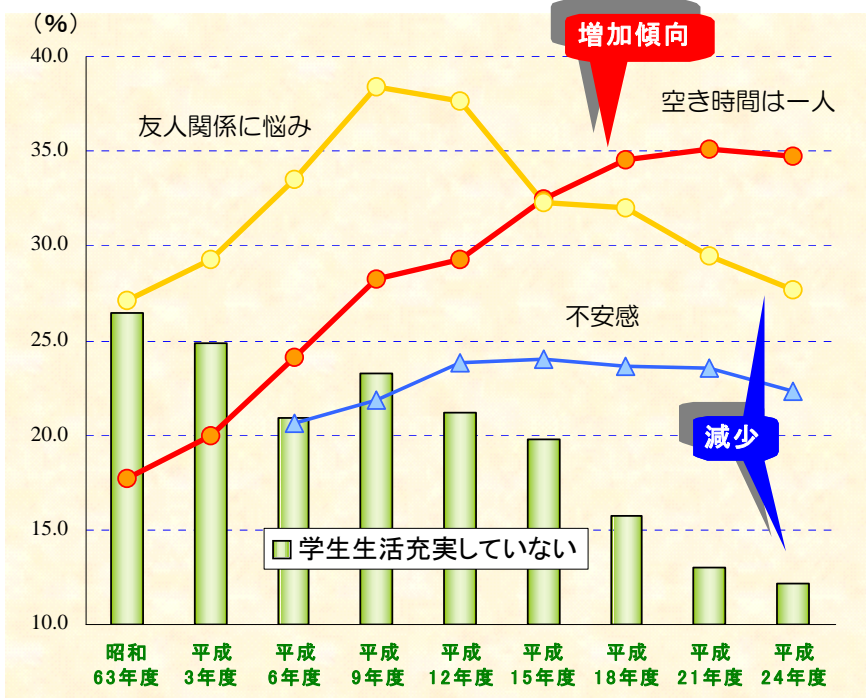
「他人が気になり困ることが多い」学生は、平成15年度にやや減少しましたが、平成18年度からほぼ横這いです。芸術学部では6年間で10.3ポイント上昇し36.9%と高くなっています。「眠れないことが多い」学生は平成12年度の21.6%からほぼ横ばい傾向にありましたが、直近の3年間で2.7ポイント減少しました。「友人に溶け込みにくいことが多い」学生は平成15年度をピークに減少傾向にありましたが、直近の3年間はほぼ横這いです。



友人関係と学生生活の充実度

ここでは、友人関係や学生生活の経年変化を見ます。

経年変化



前回に引き続き本学学生の『友人関係』に注目します。「友人関係に悩み」がある学生は平成12年度から減少に転じ、平成24年度は昭和63年度の水準にまで減少しました。一方で、空き時間は「主に一人で過ごす」と答えた学生の比率はこの3年間で微減したものの、昭和63年度から増加傾向にあり、約3人に1人に達しています。携帯電話の普及、スマートフォンへの移行、インターネットを通じての様々なコミュニケーションツールの出現といったIT環境の急速な進展により、学生間におけるコミュニケーションの方法が多様化し、空き時間に一緒に過ごす人数や友人関係のあり方に少なからず影響を及ぼしていると推測できます。

「空き時間一人」が増加していますが、「不安感」はほぼ変わりありません。「友人関係の悩み」は減少傾向にあります。これらは「学生生活の充実」を意味するかもしれませんが、「学生生活充実していない」が減少しています。

※「不安感」とは：「食欲がなくなることが多い」「眠れないことが多い」「イライラが多い」「不安感をもつことが多い」「他人が気になり困ることが多い」「友人に溶け込みにくい」この6つの項目の%の平均値

※「学生生活充実していない」とは：「あまり充実していない」と「全然充実していない」の2項目の%の合計値

平成24年度学部別

補足：空き時間に過ごす友達の数

学部別にみると、空き時間を「主に一人で過ごす」学生の割合が最も高いのは法学部で50.4%、次いで芸術学部の45.3%、国際関係学部43.2%となっています。平成18年度と比較して、歯学部と医学部では、「一人で過ごす」学生の増加幅が大きくなっています。

一方、薬学部は、空き時間を「主に四人以上で過ごす」学生の割合が最も高く、50.0%に達しています。

平成18年度と比較して、「四人以上で過ごす」学生の増加幅が大きい学部は、松戸歯学部・生物資源科学部・生産工学部であり、8～11ポイントの増加が見られます。

